



為石小学校の合言葉 「ためし 最高! ~ 地元で学び 地元を活かし 地元とともに行動する子ども ~」



←HPを登録
してください。



学校だより

ためし

- 楽しく めあてをもって しっかり学ぶ
- 正しく めあてを しっかり守る
- たくましく めあてに向かって しっかり鍛える

令和6年4月22日号

文責 上久木田雄二



大型連休を前に

今年分散型のゴールデンウィークとなります。すでに各家庭では計画を立てていることと思います。

子どもたちにとって有意義な休みになるようにご配慮ください。特に次の2つのことは必ず守るように家庭でご指導ください。

○基本的な生活習慣を崩さない

早寝 早起き 朝ごはんを守る

○学習時間を設定する

キュビナを中心に、自分の学習を自分で組み立てる習慣を身に付けさせる

基本的な生活習慣は、毎日の途切れのない声かけが大切です。

学習については、キュビナの「学習履歴」の確認が有効です。

いつ・どの教科を・何問・どのくらいの時間

取り組んだのかを確認できます。子どもたちにも自分で確認できるように指導をしています。

同様に、保護者の皆さんも「学習履歴」を確認する習慣をつけていただくと相乗効果が生まれます。

最近「ラーケーション」という言葉が聞かれるようになりました。「ヴァケーション」と「ラーニング」の合成語のようです。本来的には、平日を休むことを意味するようですが、現実的にはハードルが高いと思います。

遠くに出かけるとか、たくさんのお金をかけるとかという意味ではなく、家族が時間や空間を共有し、豊かな時間を過ごすことは、子どもの育ちにはとても大切です。

今後「ラーケーション」を実施されるときには、学習の保障も同時に考えていただければ幸いです。

「ラーケーション」と同時に生まれた言葉で「体験格差」があります。これは、「学校外」の活動の格差のことを意味しています。

文部科学省では、「学校内」での体験活動の意義を、

- 1 現実の世界や生活などへの興味・関心、意欲の向上
- 2 問題発見や問題解決能力の育成
- 3 思考や理解の基盤づくり
- 4 教科等の「知」の総合化と実践化
- 5 自己との出会いと成就感や自尊感情の獲得
- 6 社会性や共に生きる力の育成
- 7 豊かな人間性や価値観の形成
- 8 基礎的な体力や心身の健康の保持増進

と捉えています。

大型連休の時には、この意義を「学校外」にも広げていただき、子どもたちを育てることが「ラーケーション」の本来的な意味であるように私は思います。

特に、次の3つはとても大切です。

- 2 問題発見や問題解決能力
- 6 社会性や共に生きる力の育成
- 7 豊かな人間性や価値観の形成

楽しい体験だけでなく、嫌な思いや苦しい気持ちの体験とその処理の仕方なども、子どもたちの育ちにとっては、とても大切な体験活動につながるのです。

